

1 音楽科の学習のねらい

①歌唱	・歌唱に親しみ、歌詞を理解して歌い方を工夫できるようにする。 ・混声合唱の学習を通して、曲の構成や音の重なり方を理解し、表情豊かに歌えるようにする。
②器楽	・アルトリコーダーや和楽器などに親しみ、基本的な演奏技術を身につける。
③創作	・拍子や音符、休符、リズムを理解して、リズムをつくれるようにする。
④鑑賞	・日本の伝統的な音楽や、諸外国の音楽に興味・関心をもち、主体的に鑑賞し自分の言葉で批評することができるようにする。

2 1年の学習内容

表 現			鑑 賞
歌 唱	器 楽	創 作	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌</li> <li>・夢の世界を</li> <li>・主人は冷たい土の中に</li> </ul> <p>音楽会に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Believe</li> <li>・クラス合唱曲</li> </ul> <p>・そのままの君で など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルトリコーダー</li> <li>「主人は冷たい土の中に」</li> <li>「オーラリー」</li> <li>「さくら」</li> <li>・箏「さくら」の演奏など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム創作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想の変化を感じ取って聞こう。</li> <li>「春」</li> <li>・詩の内容と曲想の変化との関わりを感じ取ろう。</li> <li>「魔王」</li> <li>・日本の伝統音楽に親しもう。</li> <li>「六段の調」</li> <li>「越天楽」</li> <li>など</li> </ul>

3 評価の観点

(1) 知識・技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。  
創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。

(2) 思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図を持ったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたりしている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

○歌唱では、声量、声質、音程、曲想に応じた表現、合唱でのハーモニー感 等

○器楽では、運指、音色、強弱、フレーズに合ったブレス、タンギング、奏法 等

○鑑賞では、曲の良さや特徴を味わったり、気付いたりすることができ、それを理解できる。  
音楽的なことについてふれながら、音や音楽に振れながら、自分の言葉で批評できる。 等

☆プリントや自己評価カードなども、しっかりと記入、提出している。